

# よろずは

平成二六年  
一月号

「記紀万葉の故地」シリーズでは、記紀万葉に記された地域にかかわる内容をご紹介します。

## 記紀万葉の故地 6

全国各地に残る万葉歌をみると、どうしてこの地が詠まれたのか、説明が難しいものがあります。

苦しくも降り来る雨か

神の崎 狭野の渡りに 家もあらなくに

(訳文) 不本意にも降って来る雨よ。三輪の崎の佐野の渡

しに家もないことだのに。

(巻第三の二六五番歌)

「神の崎狭野」は、和歌山県新宮市が有力な候補地です(奈良県桜井市の説もあり)。紀伊国に関する歌は、紀伊行幸時のものが多くを占めますが、なかには行幸ルートから大きく外れる右のような歌もあります。詠んだのは、長忌寸奥麿です。しかし、なぜこのあたりを通る歌を詠んだのか判然としていません。歌には、わが家もない離れた土地にきて、かなりの雨に遭った大変な様子が詠まれています。いったい彼は、どこからどこへ向かおうとしているのか。背景を考える難しさを味うのも一興です。【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



黒潮公園にある万葉歌碑